

マーケットの動き（2020年9月14日～9月18日）

先週の国内債券市場は、前週末比でほぼ横ばいとなりました。海外株式市場の調整を受けたりリスク回避的な動きや、日米ともに無難に入札をこなしたことも後押しとなり、金利低下が優勢となりました。クレジット市場は10年以下の国債の金利低下を受けて、スプレッドとしては拡大傾向で推移しました。一方で、新発債発行もこなしながら、セカンダリー市場で大口の買いも見られるなど、買い需要も見られました。

投資環境見通し（2020年9月）

国内長期金利はレンジ内で推移

各国中央銀行が緩和的な金融政策を続ける中、日銀は副作用が懸念されるマイナス金利の深堀りを実施せず、引き続きイールドカーブ・コントロールを継続するとみられます。10年以下の年限の国債利回りは引き続き狭いレンジ内での動きにとどまると予想しています。また、超長期国債については増発が懸念されるものの、日銀による無制限買入に加え景気動向を考慮すれば、上昇圧力は限定的とみています。

	9月18日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	0.00	▲0.01	▲0.03	▲0.03	0.17
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	387.37	0.06%	0.27%	▲0.28%	▲1.68%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

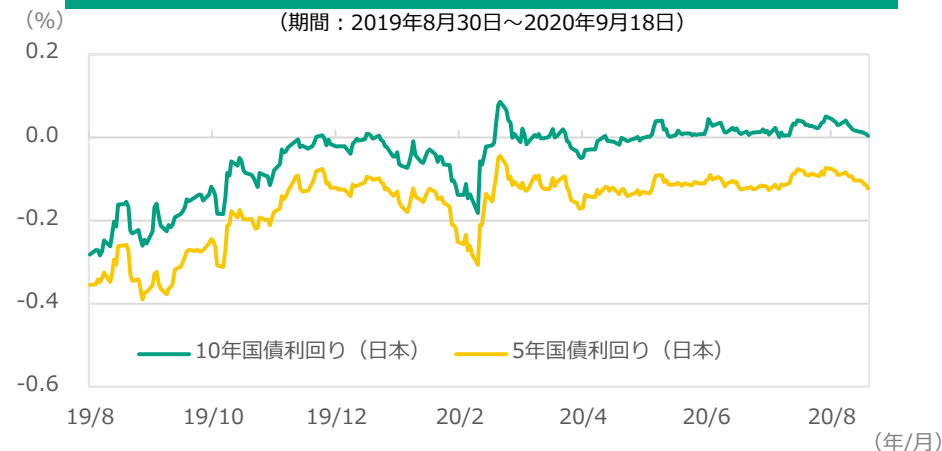
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202009_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなされるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

（期間：2019年8月30日～2020年9月18日）



野村BPI総合指数の推移

（期間：2019年8月30日～2020年9月18日）



※2019年8月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成